

札幌市立中央小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.chuo-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態

本校は、学校の前を大通りが走り、学校の裏にはテレビ局があるという札幌のほぼ中心部に位置する学校である。校区内には、子どもたちが外で自由に遊べる環境は比較的少ないため、冬は家に閉じこもりがちになることが多い。そこで、教育活動においては、子どもが屋外で活動する機会を多く設け、雪に親しみながら活動する中で、北国札幌らしさを感じ取ってほしいと願っている。

2 実践単元名・題材名

2年生 図画工作科 「雪のキャンパス」

3 単元・題材の目標

【造形への関心・意欲・態度】

ペットボトルの色水を使って、イメージした形や色を雪の上に表す活動を、体全体で楽しもうとしている。

【発想や構想の能力】

自分たちで決めたイメージを基に、表したい形や大きさ、色などを考えている。

【創造的な技能】

体全体の感覚を働かせながら、ペットボトルに入れた水の量や濃さを考え、工夫して表している。

【鑑賞の能力】

みんなで作った作品を鑑賞し、雪の白さととの対比や高い所からみた時の感じ方などを交流し合い、作品の面白さや楽しさを感じたりしている。

4 取組の様子

① 作品作りの計画を立てる

- ・グループごとに、テーマに沿って描きたい絵のイメージを話し合う。
- ・描くイメージにそって、どんな絵にするか、どんな色にするかを話し合う。
- ・どんな色をどれくらい作ればよいかを話し合う。



② 色水作りをする

- ・誰がどの色を作るかを決める。
- ・絵の具やさん（教師）に必要な色をもらいに行き、自分が担当した色の色水を作る。

③ 雪のキャンバスに絵を描く

- ・グループで手をつないで輪を作り、作った輪の中の雪を踏み固める。
- ・円の形に踏み固めた場所を皿に見立て、自分たちの考えた絵になるように色を付けていく。

④ みんなで鑑賞する。

- ・スキー山や校舎の窓など、高い所に登り作品を鑑賞する。



5 研究のまとめ

【成果】

この学習の魅力は、大きな作品をみんなで作り上げる楽しみもその一つであるが、何と云っても、「雪」に覆われたフィールドに自分たちの思い描いた色をダイナミックにのせていけるところにある。

本実践においても、真っ白い雪の上に、こぼしたり、はみ出したりという心配をすることなく、思い思いの感覚で色をのせていく楽しさに浸る子どもの姿の表れを捉えることができた。

また、この活動は、重いペットボトルを抱え、体全体を使って雪に関わることが求められる。このような活動を通して、子どもが、諸感覚を働かせ、雪の白さや温度、質感などを存分に楽しみながら作品作りに向かう姿が見られたことが成果と言える。

【課題】

作品のテーマを「自分たちのレストランをひらこう」とした。食べ物をモチーフとすると、子どもは現実の食べ物をイメージし、自らの発想を基に色や形を構想していく姿はあまり見られなかった。子どもの豊かな想像力を発揮させるためには、魚や花をモチーフにするなど、子どもが自由な発想を生かしやすいテーマを設定してもよかった。

また、この学習は屋外での活動を含むものである。そのために天候や、子どもたちの健康状態によって活動を延期せざるをえない状況が発生することがある。そういった状況も踏まえ、活動時期を設定していくことが課題となる。